

輸出事業計画

※申請者名：鶴岡市農業協同組合、品目：コメ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・国内回転寿司チェーンの台湾進出をきっかけに、国内業務用米で評価のある主食用品種「はえぬき」を寿司米として平成30年度から輸出を開始。
- ・しかし、令和元年度以降、輸出用米の価格が相対的に下落したことから輸出の取組を休止。

【課題】

<生産段階>

- ・生産者の高齢化による担い手不足や労働力不足への対応。

<流通・加工段階>

- ・既存の共同利用施設の老朽化、用途別に長期保管可能な倉庫の確保。
- ・販売価格競争力の強化を目的に物流コスト等の経費削減。

<販売段階>

- ・香港、台湾を輸出先に想定して準備しているが、販路が未確定。

2. 輸出事業計画の取組内容

<生産段階>

- ・鶴岡市農業協同組合管内での計画的な輸出用米の取組に向けて、生産者に今後の計画を説明し理解を得るとともに、農業経営の法人化、ハローワークの活用、ヘリ防除の実施による労働力不足の解消を図る。また、衛星リモートセンシングを活用したスマート農業技術の導入に取り組む。

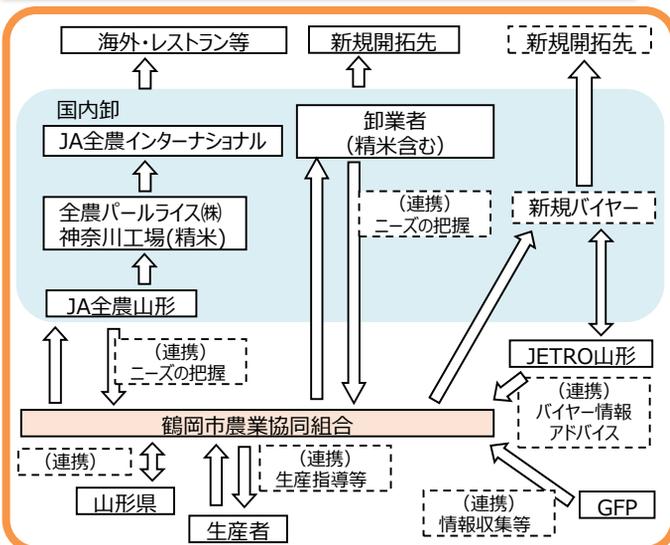
<流通・加工段階>

- ・令和5年度以降に、規模拡大・集約のため大泉倉庫を拠点倉庫として改築。輸出用米は全量フレコン出荷とし、流通コストの削減を図る。

<販売段階>

- ・販路開拓に取り組むとともにテストマーケティングを行い、令和4～5年度から輸出の本格始動を目指す。販路開拓においてはJA全農をはじめとした取引先を通じた海外のニーズ把握に加え、GFP事務局、JETROからの情報収集に力を入れつつ、商談会等のマッチング機会を最大限活用する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状 (令和3年度)	目標年 (令和8年度)
輸出額 (百万円)	0	133
輸出量 (t)	0	1,000
輸出先国	-	台湾 香港